



NHO Kyushu Cancer Center

九州がんセンター

52

2025年 春季号

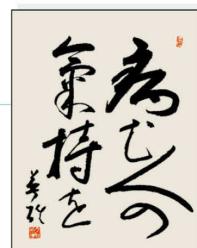
発行所 ● 福岡市南区野多目3丁目1-1 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター | 編集発行 ● 広報・情報委員会 | 印刷 ● 株式会社 陽文社



「九州がんセンターと桜」

基本理念

私たちは『病む人の気持ちを』そして『家族の気持ちを』尊重し
温かく、思いやりのある、最良のがん医療をめざします



(初代院長 入江英雄書)

患者さんの権利

私たちは、患者さんの人権を尊重いたします。
患者さんは病名、病状、治療法、ケアなどについて納得のいく説明をお求めになることができます。
十分なご理解と同意をいただけるよう、私たちは最善の努力をいたします。

シンボルマーク

シンボルマークの意味

青 - 平和・信頼

緑 - 生命・安心

ピンク - 幸福・愛情

3つの輪 - 臨床・研究・教育

2つの枝 - 医療者が患者によりそう



日本医療機能評価機構
認定病院 (Ver 6)



Contents ::

巻頭言：“がん”ならやっぱり九州がんセンター	
“時代のニーズに応えるがん専門病院”を目指して	2~3
サイバー攻撃の悪夢	4
九州がんセンターは広報・情報発信に、 より一層力を入れていきます	5
外来がん薬物療法を支えるチーム医療	6
がん診療と臨床研究： 私たちはより質の高いがん診療をお届け	
しようと頑張っています	7
新任のご挨拶	8~9
外来担当医一覧表	10

“がん”なら やっぱり 九州がんセンター

“時代のニーズに応えるがん専門病院”
を目指して

院長 森田 勝



みなさん、こんにちは。

昨年4月に私が院長に就任し1年が経過しました。おかげで新体制でのスタートを順調に切ることができました。誠に有難うございました。今年度も、医療・介護、行政、患者会など関係の皆様と密に連携し、地域に貢献していきたいと思います。また、日本そして世界に目をむけ、**最新で正しい情報の発信**を続けていくことも当院の大切な使命だと考えています。そのために、がんに関する新しい知見を学会や論文などで発表していくとともに、患者さんや市民、医療関係者にむけて、市民公開講座や様々な講演会などをひきつづき企画していきます。さらに、昨年度から当院の**InstagramなどのSNSを充実させた**ことに加え、この度、病院の**ホームページを一新**し、当院の企画やがんに関する最新情報を発信するようにいたしました。皆様、是非、ご覧ください。

現在、少子高齢化社会を迎えるとともに、政治・経済の面でも極めて不確実な時代です。その中でがん医療・ケアも高度に専門化し複雑になっています。私の担当する消化器外科の分野でも、大きな切開による開腹手術から腹腔鏡手術にかわり普及するとともに、現在ではロボット支援下手術も盛んに行われています。薬物療法をみると、以前は正常組織にも毒性が強い殺細胞性抗がん剤が使われていましたが、その後、分子標的薬、現在では有効な免疫療法も臨床応用され、治療の選択肢が広がっています。当院では、これらのロボット手術や分子標的薬・免疫療法などの**“高度な診療を日常診療として”**行っています。この様な治療にさらに磨きをかけるのに加え、「がんセンターとして新たに何ができる、何をしたら社会に貢献できるか」を職員一人ひとりが考え方行動することを促しています。



ロボット支援下手術
Da-Vinci Xi



化学療法センター
ベッド20床、リクライニング6床

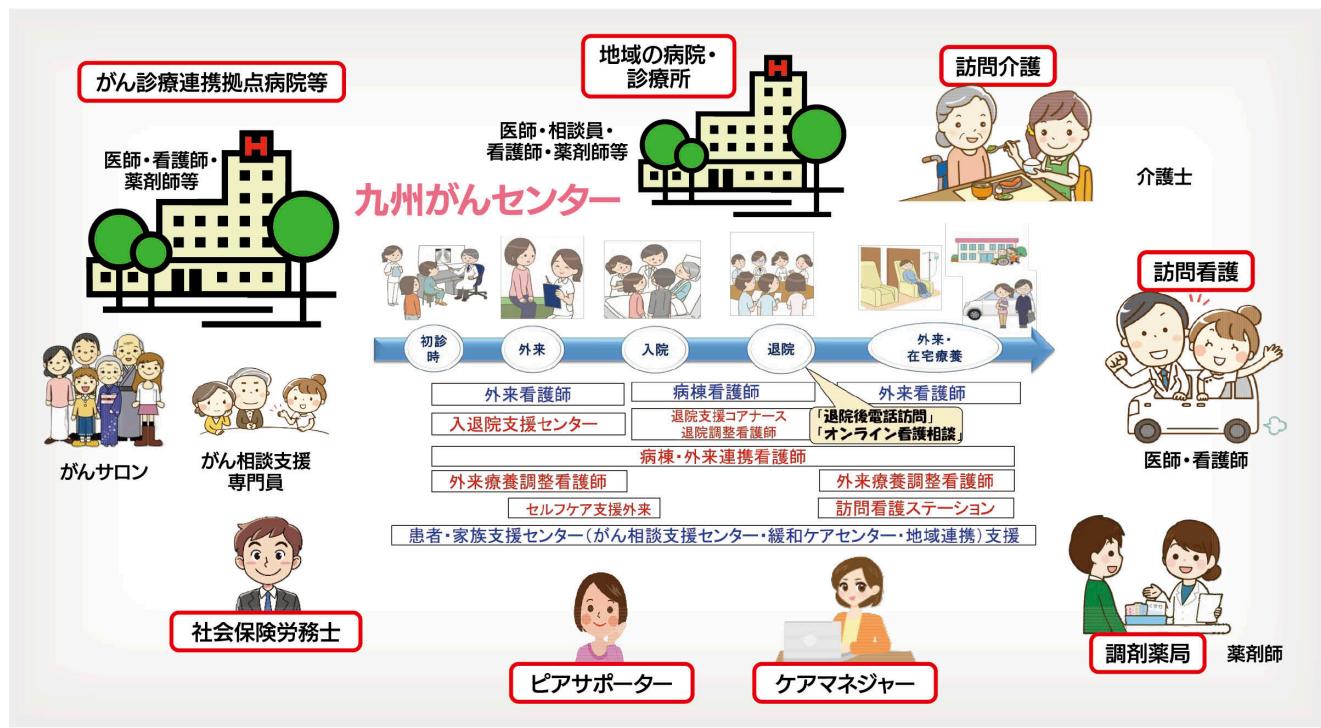


高精度放射線治療
Radixact X9

“高度な診療を日常診療として”

がん患者さんやご家族の心理として、つらい思いや悩みは今も昔も変わりません。多くの方はがんと診断されただけで気が動転し、担当医やスタッフの説明も冷静に聞くことができません。とくに進行したがんや再発の場合は計り知れません。病気や治療のことだけでも大変な上に、仕事やお金など生活のこと、家族のこと、将来のことなど様々な悩み・不安が生じるもので。当院の basic 理念は、**「私たちには「病む人の気持ちを」、そして「家族の気持ちを」尊重し、温かく思いやりのある、最良のがん医療をめざします」**です。この基本理念は、初代入江院長の**「病む人の気持を」**、2代森脇院長の**「家族の気持を」**という言葉をもとに作られました。この理念をもとに、**がん患者さんやご家族をサポートする体制**をつくって

きました。『患者・家族支援センター』では、広範囲のご相談に対応可能な“がん相談支援センター”や、患者図書室、患者サロン、アピアランスケアルームなどを備えています。さらに、外来・入院・在宅と**「切れ目ない診療・ケア」**を実践するために、「病棟・外来連携看護師」、「退院後電話訪問」などの新しい試みを導入とともに、昨年12月には『入退院支援センター』をより充実・強化させ入院前から退院後の生活を見据えた診療・ケアを行っています。全国のがんセンターで初めて設けた『訪問看護ステーション』では、ご自宅での生活をサポートしています。これらは患者さんと病院の『心の架け橋』となっているようです。



伝統の精神を継承し磨きこむ

今後も、「病む人の気持を」の精神を継承しつつ磨きこむ一方で、**“時代のニーズに応えるがん専門病院”**を目指していきます。そして、患者さんやご家族から**“がん”ならやっぱり九州がんセンター**という声がいつも聞こえるような病院になれるよう努力したいと考えています。そのために職員一同、**“患者さんのために”**、**今、できることを考え、そして行動していきたい**と思います。

皆様、何卒、よろしくお願い申し上げます。

サイバー攻撃の悪夢

Nightmare

Cyber Attack

副院長 益田 宗幸



現在、副院長業務の一環として、医療安全および医療情報管理の担当責任者を任せられています。その中で昨今いろいろなところで取り沙汰されている、事業継続計画(BCP)も守備範囲の中に入って来てしまいました。Google AIで引いてみると、「BCPとは企業が緊急事態に備えて事業を継続するための計画です。その目的は、自然災害やテロ、パンデミックなどの緊急事態で事業資産の損害を最小限に抑える・中核事業の継続や早期復旧を可能にすること」となっています。この中でとくに電子カルテに対するサイバー攻撃が、2021年に徳島県の半田病院、2022年に大阪急性期・総合医療センターで立て続けに起こりました。どちらも対応に1~2ヶ月を要し損失は、半田病院では電子カルテの復旧に7000万円(身代金300

万円を含む)、大阪急性期・総合医療センターでは、調査・復旧費用数億円、診療制限による損失数十億円とされています。事態を重く見た国は、診療録管理加算Iの要件に、医療情報システム安全管理責任者の設置、情報セキュリティ方針の策定および教育・訓練を含む情報セキュリティ対策を推進することを追加しました。

ということで当院でも、サイバーアンシデント対策マニュアルを策定し、2月27日に第一回目のサイバー訓練を行うことになりました。しかしながら、基本的に素人の集まりですので、そもそもサイバー攻撃の何たるかがわかつておらず、まったくの手探り状態でした。しかしながら、当院のシステムエンジニアに話を聞いて、ようやく以下の事実がわかつてきました。

1. ウィルスの侵入にあった場合、身代金要求型であればすぐに分かるが、ウィルスのタイプによっては、電子カルテの不調としか思わない可能性あり
2. ウィルスに感染した場合(感染したと想定される場合も)、被害を最小限に留めるために電子カルテを即座にシャットダウンする必要あり
3. そのうえで専門の対策チームに調査を依頼し原因を突き止めてもらう。結果がでるのに数週間はかかる
4. 感染であれば電子カルテシステムをバックアップから再構築する必要あり(ここまでに2ヶ月程度要する)
5. 患者の情報はバックアップから参照することになるが、これもすぐには見られない(数日から一週間?)情報を見るのに十分な端末はない。患者情報は医療者の記憶に頼る?癌医療は不可能?
6. 当然紙カルテでの運用になるが、入院・外来患者の診療に必要な膨大な書類のストックはない
7. 大半の職員は紙カルテ運用の経験がまったくない
8. 画像検査はできるが、結果は放射線科のモニター画面でしか見られない

列挙したのはわかつてきた問題の一部ですが、万一サイバー攻撃にあうと想像を絶するような事態に陥ります。

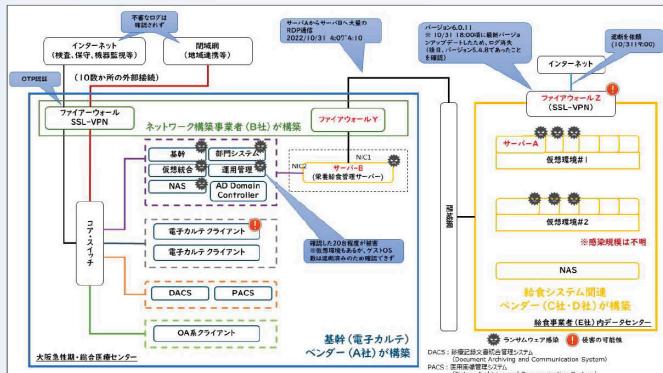


図1：ネットワーク構成図と感染状況

皮肉なことに、Dxの推進は利便性の裏側に、常にサイバー攻撃の危険をもたらします。半田病院、大阪急性期・総合医療センター(図1、調査報告書より)とともに、盲点であった電カル本体以外の部門の脆弱性(病院・電カルベンダーともに把握せず)をつかれてウイルスの侵入を受けています。しかしながらどんなにセキュリティを上げていっても、天才ハッカーの前に不可能はない気もします。ということで、以下のようなオチになってしまいました。

結論：サイバー攻撃に対する最強の媒体は紙カルテである。

九州がんセンターは

広報・情報発信に、 より一層力を入れていきます

副院長（広報・情報委員長） 中村 元信



広報とは、「組織がステークホルダーとの良好な関係を構築・維持するための活動」とされています。病院の場合、ステークホルダーは患者さんであり連携する医療機関になります。

人でも組織でも、良好な関係を築くためには、まず自分を知ってもらうことが大切なのはいうまでもありません。九州がんセンターが九州唯一のがん専門病院であることは知られていても、がん専門病院として具体的にどのような診療、どのような取り組みを行っているのか、ご存じない方も大勢おられると思います。今まで、情報発信を行ってはいましたが、がんの診療が急速に発展して複雑になり医療を取り巻く環境が厳しさを増しつつある現在、今まで以上に広報・情報発信の必要性、重要性を痛感しています。

昨年度、新病院長の就任とともに新たに院長直轄の「広報・情報委員会」が設立されました。まずこの委員会の重要なプロジェクトとして当院ホームページの一新に

取りかかりました。患者さん、医療関係の方々にとってより見やすく、当院の取り組みがわかりやすいページ構成をこころがけて作成し本年4月1日に公開しましたので、是非ご覧ください。

当院ホームページの一新に併せて、医療関係の方々向けに「九州がんセンター診療のご案内（仮称）」を作成しています。これは今まで新年度に発行していました「診療科のご案内」の内容に、当院のご紹介、医療関係の方々にお伝えしたい病病・病診連携についての事項、「放射線検査利用案内」に掲載していた内容を集約した案内冊子となっています。また、昨年9月より様々なトピックスを扱う「病院だより」を定期的に発行し、今までに「神経内分泌腫瘍（NET）に対する新治療（ルタテラ™）導入」「メラノーマとほくろの見分け方」「経済的困難患者への早期介入促進チーム紹介」「患者の感情表出を促すコミュニケーションスキル研修」の4号を発行しました。そして今や情報収集・コミュニケーション

ツールの主役となり幅広く利用されているSNSによる情報発信にも注力しています。今までお世辞にも充実しているとはいえないかかったInstagramへの投稿も、講演会や研修会などの案内に加えて行事食紹介（本年のおせち料理の投稿には大きな反響をいただきました）や職員ペット自慢など、身近で親しみの持てる病院に感じていただけるような投稿も積極的に行っています。

当院はがん専門病院として、高度かつ最新のがん医療が提供できるように努めていますが、それと一緒にがんで苦しむ患者さんとそのご家族に手厚い医療サービス・支援をご提供すべく、多職種で部門横断的に数多くの取り組みを行っています。これからもこれらの取り組みをお伝えするとともに、幅広く皆様のご要望に応えることができるような広報・情報発信を通じて双方向コミュニケーションを深めていきたいと思いますので、今後ともなにとぞ宜しくお願ひいたします。

九州がんセンターは、病む人、家族の気持ちに寄り添い、質の高いがん医療を提供します。

診療受付時間
平日 8:30~11:00
休日 9:00~12:00
午後診察
土曜日・日曜・祝日 8:30~11:00
午後診察

ご予約・お問い合わせ
【オンライン】
【電話】
092-541-3262
受付時間：平日 8:30~16:00
土曜日・日曜・祝日 8:30~12:00
受付時間：平日 8:30~17:15
土曜日・日曜・祝日 8:30~16:00

診療科部門
外来担当医師
フロアマップ

Certificate
がんの情報
（Cancer treatment）

採用情報
Recruit
● 研修医
● 看護師
● 新規登録

新ホームページトップ画面

Coming Soon.

インスタグラム画面



近年、新規抗がん薬の開発、投与方法の工夫、副作用に対する対症療法の進歩などにより、がん薬物療法(化学療法、抗がん薬治療、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬)の治療成績は向上し、生活の質(クオリティオブライフ、QOL)を重視した外来通院での化学療法が広まっています。当院では通院可能な全身状態の良好な患者さんに積極的に外来治療を行っています。

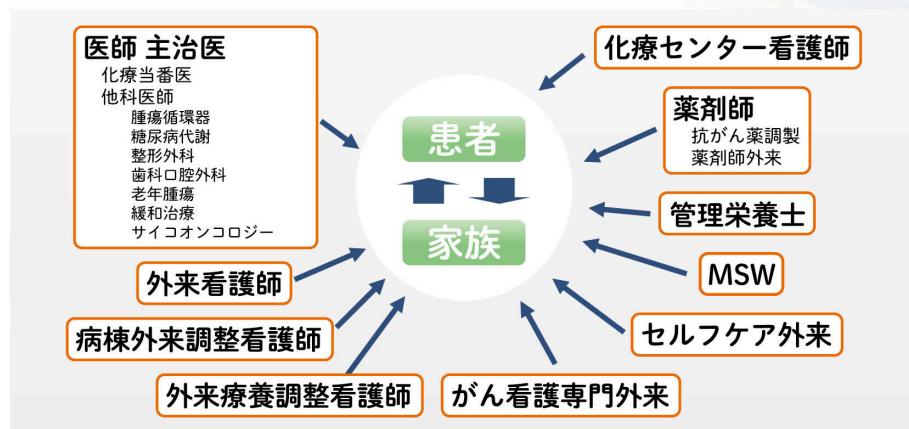
注射薬による外来化学療法は病院2階の化学療法センターで行っています。20床のベッドと6脚のリクライニングチェアの計26床で、1日60人前後の患者さんが注射での抗がん薬治療を受けています。当センターには医師(当番医)と専従の看護師、薬剤師が配属されています。ベッドサイドにはテレビも設置して広くリラックスした環境のなかで治療が受けられるよう配慮

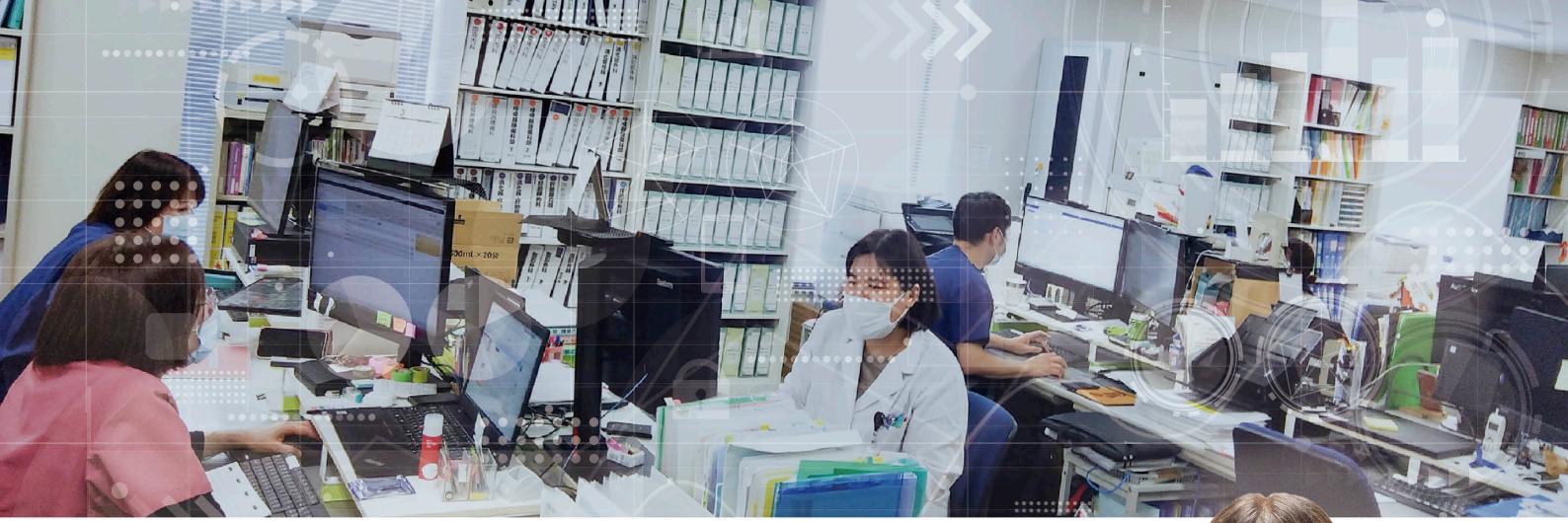
しています。抗がん薬の調製はセンターと隣接した薬剤部で行い、待ち時間の短縮に努めています。センターの看護師は抗がん薬の投与を行うとともに患者さんのケア・観察を密に行います。薬剤師による服薬指導、管理栄養士による栄養指導などにも力を入れています。

外来での化学療法は化学療法センターだけが担っているわけではありません。内服の抗がん薬や分子標的薬による治療を受ける患者さんも多数います。内服薬というと副作用が軽く点滴注射よりも楽な治療というイメージがありますが、注射薬と同様またはそれ以上に注意を要する薬剤が増えています。内服薬のみで治療を受ける患者さんは化学療法センターでの指導は受けませんが、外来受診のたびに薬剤師外来で丁寧な問診による服薬状況や副作用の把握が行われ、主治医へのフィードバック、

処方提案などが行われます。身体症状に関しては、主治医だけではなく他の診療科医への垣根の低いコンサルトの体制が構築されています。がん化学療法認定看護師によるセルフケア外来では、皮膚症状を始めとした抗がん薬の副作用に自宅で自分でどう対応するかの指導を行います。外来では入院と違って毎日医療者に相談できるわけではありません。患者さんやご家族はいろいろな不安や悩みを抱えています。一般的の外来看護師だけでなく、がん看護専門外来としてがん看護専門看護師や認定看護師、病棟・外来連携看護師、外来療養調整看護師などが、医師の診察に同席し、また診察の前後に患者さんの話を聞いて患者さんの訴えや理解度を確認し、意思決定支援を含めた身体・精神症状のケアを行っています。医療ソーシャルワーカー(MSW)は福祉関係・就労・医療費の相談などを請け負います。

今後ますます外来通院での薬物療法は増えると予想されます。化学療法センターを含めた九州がんセンターの外来では、入院をしないで安全に、安心して抗がん薬治療が受けられるよう、医師、看護師、薬剤師、栄養士を始め多職種によるチームとしての医療に取り組んでいます。





がん診療と臨床研究

私たちはより質の高いがん診療を
お届けしようと頑張っています

統括診療部長 杉本 理恵



新年度を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。
九州がんセンターは新たなメンバーを迎えてまた気持ちを新たに
日々の診療に取り組んでいます。

さてみなさまは臨床試験、と聞いてどんな印象を持たれるでしょうか。新しい薬を開発するための治験ならわかるけど、それ以外に試験?なにか医者が適当にデータを出したくてやってるだけのもの?何か役に立つの?本当に信用できるの?

実は九州がんセンターでは1年間に80~100件の臨床試験が申請されています。製薬会社がお金を出してくれる治験と違って、臨床試験はほとんどの場合手弁当です。だからと言っていい加減なものではなく非常に厳しい倫理指針が定められており、あらかじめ研究計画書を出して認められ倫理委員会を通過させなければ臨床研究はできません(文部科学省 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針)。学会で発表するにも論文を書くにも必ずどこの倫理

委員会を通過したか、それに齟齬がないか厳しくチェックされます。そんなことまでしてなぜ我々は臨床研究をするのでしょうか。それは実際に患者さんの治療をしていく上で、より質の高い医療を目の前の患者さんに、さらには全国の、世界の患者さんに届けるためには臨床研究をする必要があるからです。治験ではある限られた患者たちで薬の効果があることを証明しようとしていますが、実際の臨床の現場ではそんな条件の揃った患者さんばかりではありません。この薬は本当に高齢者にとって安全なのか、手術を成功させるため体力の落ちた患者さんに筋トレをしてもらったほうがいいのか悪いのか、治療法Aと治療法Bはどちらがどういった患者さんに適しているのか、病気を知って落ち込んでしまった患者さんの心理的サポートはどういった方法

がいいのか、栄養状態を回復させるにはどうしたらいいのか、こういった疑問は臨床試験でないと解決できません。医師だけでなくさまざまな職種の医療者が目の前の患者さんに対して真剣に向かい、臨床的な疑問を持ち、その人だけでなくもっと多くの人により良い医療を届けようと奮闘しているからこそ九州がんセンターでは沢山の臨床試験が行われているのだと思います。

こうした多数の臨床研究を支えているのが臨床試験推進室で専任の薬剤師さん、CRC看護師さんたちがデータ入力などを担ってくれています。こうした方々のサポートで質の高い臨床研究は成立しています。

私たちは少しでも質の高い、役に立つ、患者さんに優しいがん診療を九州がんセンターからお届けするためこれからも頑張ってまいります。

新任のご挨拶



麻酔科医長

秋吉 浩美

質の良い麻酔をめざして

前任の小河原利帆子先生のご退職に伴い、今年度より麻酔科の科長を務めさせていただきます秋吉 浩美（あきよし ひろみ）と申します。

1996年10月から19年間非常勤麻酔科医師として、2016年4月から9年間常勤麻酔科医師として、九州がんセンター麻酔科で勤務しておりました。

九州がんセンターの麻酔科は、主に周術期の麻酔を担っています。

手術の痛みやストレスから患者さんの体を守り、手術が安全に行えるよう、手術中および手術前後の患者さんの全身状態を良好に維持するために麻酔を行います。

患者さんにとって最も重要なことは、できるだけ早く手術前の生活に復帰していただくことだと考えて

います。そのためには、患者さんに良い状態で手術を受けていただくこと（栄養状態を整える、禁煙することなど）が大切です。

手術前に患者さんの状態を把握し、手術内容と合わせて、最良と思われる麻酔を選択しています。手術にあたっては、手術中の全身管理（呼吸・循環・代謝）を麻酔科医が行い、深部静脈血栓症予防や体温管理などは手術室看護師さんと協力して行っています。手術後は早期から食事を再開しリハビリ（歩いていただく等）をしていただけるように、痛みや恶心・嘔吐などが最小限になるように努力しています。

最近は高齢化に伴い、多数の合併症をお持ちの患者さんが増えています。手術内容もロボット手術や鏡視下手術など多岐にわたっています。九州がんセンターは病院の特性上ほとんどが悪性腫瘍の患者さんで長時間手術も多いです。これらに対応できるよう、これからも安全を第一に質の高い麻酔を提供することを目標に、手術室スタッフと協力して、日々麻酔科一同精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長

鎌田 哲也

良質な医療は健全な財政基盤から

今年度より事務部長に就任いたしました鎌田哲也（かまたてつや）と申します。平成28年の新築移転の際にも勤務しておりましたので、今回で二度目の勤務となります。当時は医療法の申請を担当しておりましたが、平成27年4月に、医療法における「国開設病院等の開設承認・監督」の権限が国から県等へ移譲されたため、建て替え前の申請は

九州厚生局へ、完成時の使用許可申請は福岡市に提出するという変則的な手続きとなりました。福岡市から、「厚生局から書類の移管もされておらず、いきなり使用許可申請を出されても困る。」と言われ、難渋したことを思い出しました。ほかにもPET/CTの新設やリニアック3台の移設など、施設基準や高周波機器の免許申請などで膨大な量の書類を提出した記憶があります。また、終末期の患者さんに短期間でも自宅に帰つていただけるためにはどうすればよいか検討する中で、連携訪問看護ステーションでは調整日数が必要

なためタイミングを逃すこともあり、今すぐ動ける訪問看護ステーションは自前で作るしかないと計画を練り始めた矢先に転勤となり、やり残し感が残っていました。しかし、その後訪問看護ステーションも立ち上がりロボット手術も導入され様々な部分が進化を遂げており、九州がんセンターの活力を感じています。今後も「病む人の気持」に寄り添って更なる高みを目指すためには、健全な財政基盤が必須です。国立病院機構は国からの補助金どころか逆に吸い上げられ、投資資金が十分あるわけではありませんので、投資を受けた病院は責任をもって返済する必要があります。診療報酬が低く抑えられているうえに物価の上昇は止まらない中においても、医療の高度化や患者サービスの充実、働きやすい職場環境を整えるためには、収益の確保と経費の削減を図らなければなりません。事務部門の責任者として、病院全体の円滑な運営を支え、より良い医療の実現に貢献できるよう努めてまいります。今後も、患者さんとご家族に信頼される病院であり続けるために、地域や関連機関の皆様との連携をさらに強化し効率的な運用を進めていきたいと思っております。引き続きご支援とご協力をお願いいたします。



看護部長

岸田 佐智子

春の決意：患者さん、ご家族の気持ちに寄り添った看護の提供のために

この度、4月1日付で看護部長として着任いたしました岸田佐智子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。出身は佐賀県です。看護師として福岡県での勤務をスタートし、福岡→鹿児島→福岡→大分→熊本→福岡→長崎→福岡→鹿児島と転勤し、初めて九州がんセンターに勤務いたしました。

遠い昔ですが、看護学生時代に、当院で実習を行い、看護学校教員として学生の実習指導でお世話になりましたと、自分自身の中で、看護や教育の基礎を学ばせていただいた病院に勤務できることをとても嬉しく思っております。

時代のニーズに応えるがん専門病院を目指し、前任の看護部長が大切にされてきた、「切れ目のないがん看護」、「患者さんやご家族の気持ちに寄り添った看護」を実践できるよう努力していきたいと決意を新たにしております。患者さんやご家族に寄り添った看護を実践するためには、職員間のコミュニケーション・対話、職員を大切にすること、職務満足を高めること

も重要だと思っております。「関係の質」という言葉があります。メンバー間の相互の「関係の質（お互いを尊重し、一緒に考える）」が高まると「思考の質（気づき、面白い、前向き）」が高まり、それが行動や良い結果につながり、さらに「関係の質」が向上し、組織の目標達成につながるというモデルです。九州がんセンターの使命を果たし、看護の専門性を發揮するため、職員一丸となって、関係の質を向上させ、前向きに取り組んでいきたいと思っております。

冒頭に看護学生時代のことを述べましたが、2代目院長の森脇先生のご講義を受ける機会がございました。当院での勤務経験はございませんでしたが、今でも理念をお話されているお姿が記憶に残っており、「病む人の気持ちを」、「家族の気持ちを」という言葉がずっと心に刻まれておりました。そして、今、あらためてこのお言葉を大切にしたいと強く思っております。当院の基本理念を大切にし、何事にも真摯に向き合っていきたいと思っております。また、信頼され、選ばれる看護、あたたかく寄り添った看護を実践できるよう精進いたします。

皆様のご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



薬剤部長

松元 俊博

「安全安心な薬物治療」の実践に向けて

このたび、4月1日付で薬剤部長を拝命し、都城医療センターより着任いたしました松元俊博と申します。九州がんセンターで勤務するのは4年ぶり2回目となり、前回は副薬剤部長として6年間勤務いたしました。その間、診療、臨床研究、教育、地域連携を通じて、最新かつ最良のがん医療の実践に努めると

ともに、新病院オープンや病院機能評価受審、「オール九州がんセンタープロジェクト」、電子カルテシステム更新対応などに携わり、多くの貴重な経験を積むことができました。今回、薬剤部長として再び勤務できることは非常に感慨深く、大変身の引き締まる思いです。微力ではございますが、全力で尽力いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

近年、がん薬物療法は急速に進化しており、「安心安全な薬物治療」を提供するためには、薬剤師による積極的な介入が重要視されており、薬剤師に求められる役割、業務も日々変化しています。当院薬剤部ではこのような変化に対応するため、外来では「薬剤師外来」担当薬剤師、入院では病棟担当薬剤師が中心に活動しています。具体的には、副作用軽減を目的とした支持療法薬の情報提供や処方提案、病棟カンファレンスでの医薬品情報提供、多職種連携によるチーム医療など多岐に渡る取り組みを通じて、「安心安全な薬物治療」の実践を目指しています。「病む人の気持ちを、そして家族の気持ちを尊重し、温かく思いやりのある最良のがん医療をめざす」という基本理念のもと、病院方針や運営状況に即した薬剤部業務の実践と適応に努めてまいります。また、薬剤部内の体制整備や職場環境整備、人材育成にも積極的に取り組む所存です。今後とも薬剤部業務へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

外来担当医一覧表

休診

土・日・祝日
年末年始

受付
時間

午前 8:30 ~ 11:00

2025年4月1日より

外来	診療科	月	火	水	木	金
A	頭頸科	<休診日>	藤 賢史*(初) 本郷/原(再)	<休診日>	益田(初) 山内/益永/綿貫(再)	山内(初)/藤(賢)* 大森/平野(再)
	小児・思春期腫瘍科	中山 秀樹* 古賀(友)(初・再)	古賀(友) 野口(初・再)	中山*(友) 古賀(友)(初・再)	古賀(友) 野口(初・再)	中山*(友)(初・再)
	泌尿器・後腹膜腫瘍科	根岸 孝仁*(初・再)	古林(初・再) 根岸*(辻田)(再)	中村(元)(初・再)	根岸*(初・再) 古林/高山(再)	古林(初・再)
	血液・細胞治療科	崔/宮下(初・再) 樋口(再)	宮下(初・再) 崔/立川/樋口(再)	立川(初・再) 未廣陽子*/崔 宇都宮(再)	崔(初・再) 未廣*/宮下/樋口 宇都宮(再)	立川(初・再) 崔/宮下/樋口(再)
	糖尿病・代謝科 <small>院内紹介のみ</small>	工藤 佳奈*(初・再) 池田 紀子(再)	工藤*(再) 池田(初・再)	工藤*(初・再) 池田(再)	工藤*(再) 池田(初・再)	工藤*(再) 池田(初・再)
B	呼吸器腫瘍科	山口 正史*/島松 小齊(初・再) 藤下/橋之口(再)	瀬戸/豊澤 河端(再)	山口(正)* 豊澤/藤下/小齊 (初・再)	豊澤/河端(再)	山口(正)*/島松 藤下(初・再) 小齊/橋之口(再)
	消化管・腫瘍内科	江崎 泰斗*(初・再) 奥村(再)/有水(再)	江崎*(初) 薦田(再)/奥村(再)	江崎*(再) 薦田(初)/有水(再)	薦田(再)/奥村(再) 有水(初)	江崎*(再) 薦田(再)/奥村(初)
	老年腫瘍科 <small>院内紹介のみ</small>	西嶋 智洋*(第2.4週)(初)	西嶋(初)	西嶋(初)	西嶋(初)	西嶋(初)
	消化管外科	森田 勝 笠木(初・再)	当番医(初) 杉山(初・再)	当番医(初) 岩永(初・再)	古賀(直)(初・再)	木村 和恵*(初・再)
	消化器・肝胆膵内科	田中(初・再) 初<午後ののみ>	杉本 理恵* 千住(初・再) 初<午後ののみ>	千住(初・再) 初<午後ののみ>	杉本(初・再)* 黒川(再) 初<午後ののみ>	田中(初・再) 初<午後ののみ>
		肝臓 脾臓	久野(再)/新名(初・再)	李(初・再)	久野(再)/新名(初・再)	久野(初・再)/李(再)
	NET 外来	李/薦田(初・再)	李/薦田(初・再)	李/薦田(初・再)	李/薦田(初・再)	李/薦田(初・再)
	肝胆膵外科	<休診日>	<休診日>	<休診日>	杉町 圭史* 富野(初・再)	杉町*(初) 栗原(初・再)
	歯科口腔外科 <small>院内紹介のみ</small>	福元 俊輔*/志渡澤(初・再)	福元/志渡澤(初・再)	福元/志渡澤(初・再)	福元/志渡澤(初・再)	福元/志渡澤(初・再)
	がん遺伝外来	織田 信弥(初・再)	<休診日>	織田(初・再)	<休診日>	織田(初・再)
C	消化管二次検診	消化管・内視鏡科	消化管・腫瘍内科	消化管・内視鏡科	消化管外科	消化管・内視鏡科
	腫瘍循環器科 <small>院内紹介のみ</small>	河野 美穂子*(初・再)	河野*(初・再)	河野*(初・再)	河野*(初・再)	河野*(初・再)
	消化管・内視鏡科	村木(初・再)	宮坂/村木(再)	宮坂/光俊*(初・再)	宮坂/村木(再)	宮坂*2(午後:第1.3.5) 村木(午後:第2.4)(初・再)
J	婦人科	島本/二尾 岡留(初・再)	<休診日>	有吉 和也*/吉田/苔 (初・再)	島本/山口(真) 長山(初・再)	<休診日>
	乳腺科	徳永 えり子*/田尻 担当医(初・再) 古閑/伊地知/秋吉 厚井(再)	徳永*/秋吉 担当医(初・再) 古閑/伊地知/厚井 田尻/中村(再)	徳永*/古閑 担当医(初・再) 中村(再)	<休診日>	伊地知/厚井 担当医(初・再) 古閑/秋吉/田尻 中村(再)
	形成外科	<休診日>	福島 淳一*(涼)(初・再)	<休診日>	福島*(涼)(再)	<休診日>
	皮膚腫瘍科	内 博史*(初・再)	<休診日>	内*(初・再)	<休診日>	内*(初・再)
	整形外科/骨軟部腫瘍科	骨転移・がん骨粗鬆症 外来(初・再)	福島/薛 宇孝*(初・再)	<休診日>	<休診日>	薛*/福島(初・再)
	緩和ケア外来 サイコオンコロジー科/緩和治療科	大島(サイコオンコロジー科) (初・再)	三浦 章子(サイコオンコロジー科) (初・再)	大谷(緩和治療科) (初・再)	三浦*(正弥(正)*(初・再)	嶋本(正)*(初・再)
	E 放射線治療	中島(初)/國武 直信*(再)	阿部(初)/中島(再)	國武*(初)/吉満(再)	吉満(初)/阿部(再)	交代制(再)

* 各診療科責任者

* 2 診療科代表者

院長：森田 勝

副院長 益田 宗幸	副院長 中村 元信	臨床研究センター長 江崎 泰斗
--------------	--------------	--------------------

統括診療部長：杉本 理恵

* 各診療科責任者

消化管・腫瘍内科：江崎 泰斗
緩和治療科：嶋本 正弥
サイコオンコロジー科：三浦 章子
消化器・肝胆膵内科：杉本 理恵
消化管外科：木村 和恵
肝胆膵外科：杉町 圭史
消化管・内視鏡科：宮坂 光俊
頭頸科：藤 賢史

形成外科：福島 淳一
呼吸器腫瘍科：山口 正史
小児・思春期腫瘍科：中山 秀樹
乳腺科：徳永えり子
婦人科：有吉 和也
泌尿器・後腹膜腫瘍科：根岸 孝仁
血液・細胞治療科：未廣 阳子
整形外科：薛 宇孝

腫瘍循環器科：河野美穂子
歯科口腔外科：福元 俊輔
放射線治療科：國武 直信
皮膚腫瘍科：内 博史
老年腫瘍科：西嶋 智洋
糖尿病・代謝科：工藤 佳奈

※ 初めて診察を受けられる方は、現在受診しておられる病院や医院（かかりつけ医）からの紹介状（診療情報提供書）をお持ちください。また、「がん検診（一次検診）等で精密検査が必要とされた方も、検診機関や保健所などからの紹介状（精密検査依頼書）をお持ちください。

※ 当院では「がんの一次検診」は行っておりません。がんの一次検診を希望される方はがん（一次）検診施設を受診してください。

1 2024/7/1より、初診患者受付を原則すべての診療科で予約制とさせていただきます。

初めて診察を受けられる場合、患者さんから直接のご予約はできませんので、医療機関を通してご予約いただきますようお願いいたします。

2 【院外からの紹介不可、院内紹介に限る】老年腫瘍科、歯科口腔外科、腫瘍循環器科、糖尿病・代謝科

3 放射線治療科への紹介は、直接、放射線治療医が対応します。代表 092-541-3231 に連絡し、予約希望とお伝えください。

4 緩和ケア外来（サイコオンコロジー科 / 緩和治療科）への紹介は、直接、担当医が対応します。

現在おかげの医療機関から 092-541-3231（代表番号）にご連絡いただき、予約希望とお伝えください。



独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

〒811-1395 福岡市南区野多目3丁目1-1

TEL：(代表①) 092-541-3231 (代表②) 092-557-6100

FAX：092-551-4585

URL : <https://kyushu-cc.hosp.go.jp/>

地域医療連携室

TEL：092-542-8532

FAX：092-541-3390